

題名 発明原理 40 のシンボル化

高木芳徳 (ソニー株式会社)、

概要

TRIZ において 40 の発明原理は強力な基本要素であるが、数が多く番号だけで想起することは難しい。そこでメモの際の利便性も考えてこれを手描きシンボル化した。このことにより、40 の発明原理を手軽に援用することが可能になった。その結果、矛盾マトリクスを連続的に利用したり、日常的にリバース TRIZ を行いやすくなり、社内での特許創出支援(アイデアクリエータ)活動の生産性向上にも寄与した。

内容説明

まず発明原理 1~4 の図案化から

1. 分割: ○を1で分割して半円2つ
2. 分離: ○から2つの○●に分離
3. 局所性: 三角の局所に3画の偏り
4. 非対称: 非対称な4+台形



これらの図案化に際しては、

- イメージと番号を組み合わせつつ
- 言語非依存で汎用的に使えるよう
- 内部に番号を入れこんだ構造で
- 両者の釣合いを心がけました



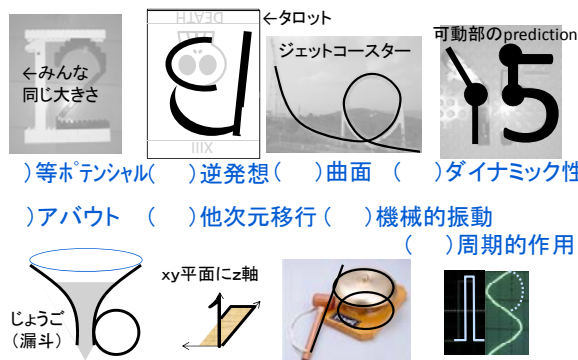
■利用法

上記のように工夫部分と感じた部分に、発明原理シンボルを記入します。この際(T2)の簡便性と共に、

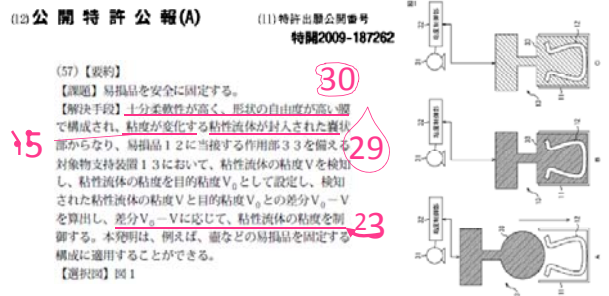
記入後(T3)の見返しを先取りして考え、先取り作用前もって(T1)「文字と反する形態」にすることにより、メモが元の文に埋もれることを防げます



シンボルの元イメージはコンパクトな発想リストにも利用でき、描くだけで発想の起点となります。



■特許公報のリバース TRIZ におけるシンボル利用例



■シンボル化の効果

- リバース TRIZ などでのメモ時に便利
- 40 の発明原理の暗記に成功
- 矛盾マトリクスを連続的に利用できる



などが見られ、社内で行っているアイデアクリエータ活動における生産性の向上がみられました。

■40 の発明原理シンボル一覧

